



第4号
令和8年7月17日
庄和すずらん幼稚園
園長 戸田 千里

★教育と共育

夏の花というと、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか？私は王道ですが、「ひまわり」です。漢字で記すと「向日葵」という文字が表す通り、日（太陽）に向かって咲く花とされています。猛暑・酷暑の中においては、さすがのひまわりもお疲れ気味・・・お気の毒な気がします。せみの鳴き声や、歓迎されない「蚊」の出現により、夏を感じたりしたのですが、昨今の気候の変動により、その現れ方にも変化が見られているようですね。あまり暑すぎると「蚊」も活動できないと聞きました。それをよしと捉えるのか、はたまた、そこまで暑いとは！と考えるのか・・・。なんとも悩ましい限りです。環境省による暑さ指数(WBGT)等が発令されるような気候には抗うことが出来ないのが現状ですが、園の教育保育方針のひとつとして「自ら主体的に自然環境に関わる」が掲げられていることから、少しの合間を縫って「夏」という季節と関わっていかれたらと思うこの頃です。

さてこの「教育保育方針」ですが、“**教育**”という言葉から、どのようなイメージを持たれるでしょうか？認定こども園である当園では、説明会等で10時から14時までを「教育時間」とお伝えしております。よくいただく質問の中には「文字指導はやってますか？」「英語の時間はありますか？」「鍵盤ハーモニカの指導はありますか？」等々があげられます。もちろんこれらを否定するものではなく、りっぱな教育のひとつだと思います。そこに教えられる側の主体性があるかないかで、大きく変わってくるかもしれません。生活の中で感じた不思議や疑問を誰かに聞いてみるということによって解決することが多々あります。聞く相手が大人とは限りません。お友達から教わることも立派な“**教育**”となり得ます。「知っていることを教える」「知らないことを教わる」という単純とも思える関わりの中から生まれるものこそ、生きていくうえで必要な知識や知恵として身につけていくのでしょうか。こういう場面では、一方的に教えるというよりは共に教えあう、育ちあうという状況がしっくりとする気がします。私はそんな時、“**共育**”という文字が浮かびます。それは、大人と子どもの関わりの中でも同様です。私達保育者は、世間的には「教える側」となりますが、実は子ども達から教えてもらうことが数知れません。そして、「教えようと思って教える」のではなく、普段からの言葉の使い方や、動作、行動が「教え」になっている場合もあります。

例えば「廊下は走りません」ではなく「廊下を歩きます」や「●●しないと〇〇できないよ」ではなく、「●●すれば〇〇できるよ」という肯定的な言葉に代えてみると、子ども達の中にも浸透していき、それを聞いた私達もまた、言葉選びに気を付けることができる等の正のループが生まれたりします。“**共育**”の賜物でしょうか？

一方的な“**教育**”も時には必要となりますが、“**共育**”による物事の習得は、「やらされている」より「やってみたい」の主体性や自分育ちへと繋がりますね。

本日ももちまして、一学期が終了いたしました。皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。そして明日からは年長組のお泊り保育です。さしま少年自然の家で展開される共育の中で、子ども達が自ら「やる気スイッチ」を押せるような生活へと繋げたいものです。